

宅配ボックス事業参入

月末にウォーターポイント

マンション向け製造・設置

飲料水の販売機製造のウォーターポイント(広島市西区)は今月末、不在時に宅配便を受け取れる宅配ボックスの製造・設置事業に参入する。ネット通販の急増や運送業者の人手不足が社会問題となる中、ニーズが高まるとみて、単身世帯の多いマンションなどに売り込む。

(村上和生)

宅配ボックスは高さ約1・5メートル、幅と奥行きが約50センチ。マンションのロビーなどへの設置を想定し、荷物を入れる4段の鍵付きの棚を備える。運送業者は液晶画面に部屋番号を入力する

だけで解錠でき、高さ38センチまで荷物を入れられる。住民が帰宅後に取り出す際には個別のカードキーを使うか、暗証番号を入力する仕組み。

既存の他社製品よりも価



四つの棚を備え、荷物を保管できる宅配ボックス

格を抑えられるよう、自社で製造する。1台1万4000円から。最大約1・4メートルの荷物まで対応できる増設用のボックスも用意する。初年度は100台の販売を目指す。

同社はスーパー向けの水の自販機製造が主力。家庭向けの水の宅配も手掛ける。全国の運送業者でドライバーの不足が課題となる中、自社でも過去に不在家庭への水の再配達が増え負担になっていた時期もあったことから、宅配ボックス事業に着目した。

今後は、スーパーに設置して買い物時に荷物を受け取れるようにするなど、拡販を進める考えだ。小早川克史社長は「マンションの所有者にとっては、入居者へのアピール材料になる。新たな収益の柱に育てたい」と強調する。